

四国旅客鉄道 株式会社

鉄道会社ならではの財務会計業務における数々の課題を 実績豊富なテンプレートソリューションで解決

四国4県と全国を結ぶ鉄道ネットワークを保有し、鉄道事業や旅行事業等を展開する四国旅客鉄道株式会社。従前の財務システムが抱えていた数々の課題を解決すべく、鉄道事業会計規則に対応した「ABeam Transportation Solution」を導入。財務会計業務のさらなる効率化・合理化、さらにシステム運用に関わるコスト削減への新たな路線を切り拓いた。



導入前の課題

- 社内外の制度改正への的確な対応
- 上場企業並みのよりレベルの高い財務報告への対応
- 固定資産関係業務の効率化
- 独自改修の極小化によるシステム維持費用の低減

アビームの選定理由

- 運輸・交通業向けSAP® ERP テンプレートソリューション「ATS」の実績
- 高い提案力、対応力に対するATS導入企業の評価
- ソフトウェアからインフラやインターフェースの構築等までをカバーするNECグループの総合力

導入後の効果

- 安定した財務システムの稼働
- 固定資産関係業務をはじめとする財務会計業務の効率化・合理化
- 保守に関わる手間と費用の低減
- 情報システム担当者の業務知識、技術レベルの向上

鉄道業に精通した
アビームコンサルティングを
新たなパートナーに
財務会計業務の効率化や
合理化、コスト削減、
さらに情報の利活用を実現す
る新システムを構築

四国旅客鉄道株式会社

VOICE (ABeamへの評価)



四国旅客鉄道株式会社
総合企画本部 課長
末沢 直邦 氏

「アビームはコンサルティング会社としてレベルが高く、さらに今回はメンバーにも恵まれました。ATSが今後も進化を続け、鉄道業界のデファクトスタンダードとなり、我々ユーザ企業の安心感がますます高まっていくことを期待しています」



四国旅客鉄道株式会社
総合企画本部 副長
香川 祐二郎 氏

「私は契約関係を担当していますが、システム構築時はもちろん運用開始後も、保守において迅速に対応していただきとても満足しています。今後もいろいろとフォローしていただくことは多いと思うので、ぜひ今までと同様の対応をお願いします」

財務システムが抱える課題解決のため
鉄道業務に適したソフトウェアの導入を検討

JR四国は、四国における基幹的公共交通機関の役割を担うべく、鉄道事業、旅行事業を中心に、JR四国グループとしてバス事業やホテル事業、不動産事業、物販事業など幅広いジャンルのサービスを提供。地域の快適な暮らしと発展に貢献している。しかし、数多くの事業を展開する中、財務システムにおいて様々な課題を抱えていた。

従前のシステムを導入する際、実行環境をメインフレームからサーバへ移行する作業を行ったが、あらゆる機能を取り込む形で開発を進めたため、予期しない不具合を招く結果となった。自社の業務に合わせるべくアドオンやカスタマイズを行ったため、運用後に機能不足でデータバッチが多発する一方、バッチの適用が困難に必要な機能は新たに作り込んでシステムを改修。そうした保守費用を低減するために、法改正や税制改正等の対応はベンダーに委託せずグループ企業内で行った。

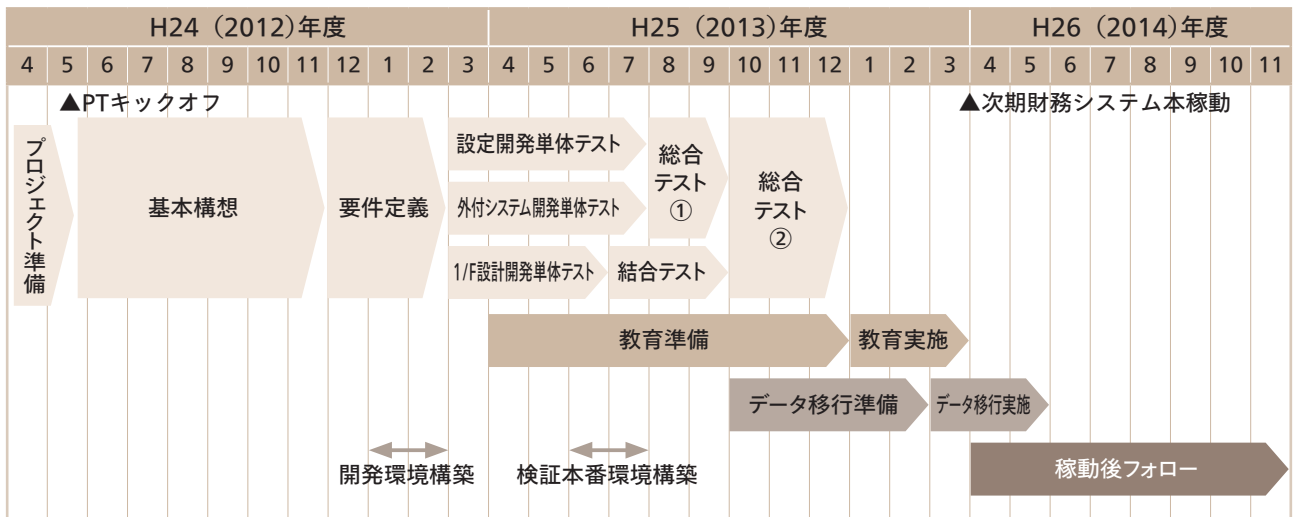
特に鉄道会社の場合、土地や建物のみならずレール等の多大な固定資産を保有しているため、財務システムにおいては固定資産関係業務の効率化も強く求められる。そこで、JR四国では鉄道業務により適したソフトウェアの導入を2010年6月から検討し始めた。

ATS導入企業の見学等を経て、
アビームコンサルティングをパートナー企業に選定

JR四国 総合企画本部 課長 末沢直邦氏は当時を振り返り、「私鉄に導入されている5種類ほどの鉄道会計ソフトを候補に挙げましたが、じっくりくるものがありませんでした」と話す。そのような中、同社はアビームコンサルティング(以下、アビーム)が提供する運輸・交通業向けSAP® ERPテンプレートソリューションである、ATS(ABeam Transportation Solution)に着目する。すでにJR各社や大手私鉄、大手物流企業など10社以上に採用されているATSは、標準プロセスフローはもとより、他社事例より得られた業務改善のナレッジまでを搭載。業界必須要件も他社で実績のあるソリューション機能がカバーしているため、高いシステム適合率を実現する。会計・管理会計・購買管理・工事管理・固定資産管理から人事管理まで、幅広い領域を対象としたサービスの提供が可能で、さらにIFRSや税制改正にも対応できる。「導入実績も豊富で、担当者による説明やデモンストレーションを受けて信頼できる会社だと感じました」と末沢氏。同社の財務部経理課 副長 戸川健司氏は「ATS導入企業を見学させてもらいましたが、製品のみならず『できないことがあったらすぐ代替案を提示するなどの対応がすごく良い』とアビームを高く評価していたのが印象的でした」と話す。また、新プロジェクトを共に推進するグループ会社のJR四国情報システム 情報システム部 課長 西谷光弘氏はこう語る。「多くの導入企業から得られた経験や知識が集約されていると聞き、カスタマイズを行わずに導入するという我々の新システムにもっともふさわしいソフトだと思いました」。

NECグループとしては、過去に仮想化基盤の構築ほか様々な案件でJR四国との信頼関係が築かれており、本件でもインフラやインターフェースの構築までをトータルに提供できる体制があることも後押しとなった。そして2012年6月、アビームを新たなパートナー企業に次期財務システム構築プロジェクトが始動した。

■次期財務システム構築全体スケジュール

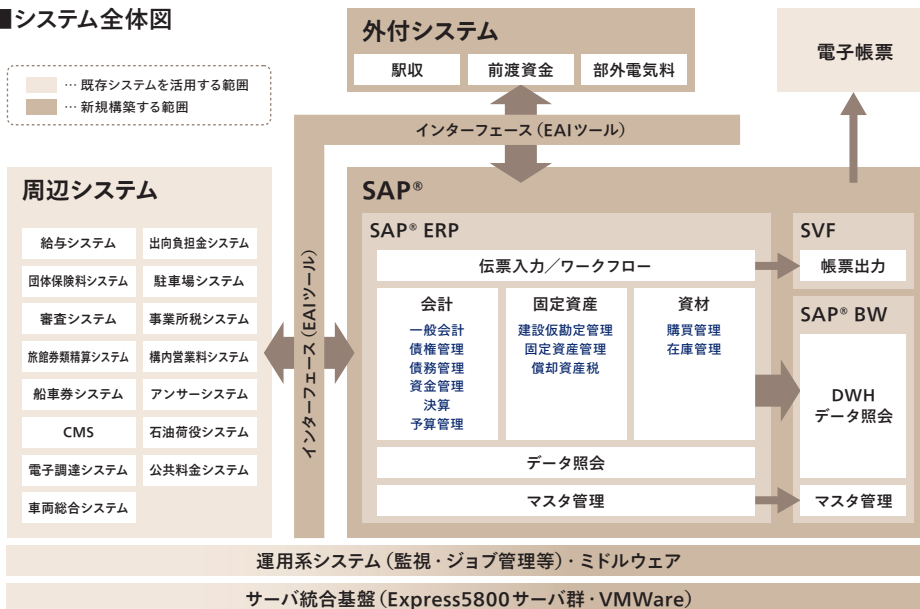


すべての機能をATSに取り込まず、 将来的な改修費用の低減を図る

新プロジェクトの基本構想は半年の歳月をかけてじっくり練られた。あらゆる機能を取り込もうとして逆に不具合が生じた従前システムの導入時を省みて、「ATSでできること、できないことを見極め、運用後にシステムを独自改修するような事態を回避しようと考えました」と話すのは、JR四国情報システム 情報システム部 石原裕士氏。前渡資金管理、駅収入金管理等については、ATS外で一からシステムを作成。結果、サーバ統合インフラ基盤を活用しATSと外付けの周辺システムとのインターフェースを構築する必要は生じたが、その部分はNECグループの総合力でカバーした。「利用ユーザの多い業務は外付けのシステムで対応すると割り切ったことで、現場の担当者が使いやすい専用の画面を構築するなどの工夫も行えました」（石原氏）。

そのことに関して、アビーム側でプロジェクトの指揮を執った執行役員 プリンシパルの山田紀夫は「お客様は我々が提供するソリューションを深く理解し、業務に合わせて無理にパッケージをカスタマイズするのではなく、ATSをベースに『この機能はこのシステムに任せる』という線引きを明確にされました。過去や現状にとらわれることなく、新しいソリューションで何ができるか、その中であるべき姿は何かを常に合理的に考える姿勢で課題解決に臨んでいただけたことに感謝しています」と話す。

■システム全体図



固定資産データの管理手法が簡潔になり、 新たなノウハウや技術も習得

新システムは当初の計画通り2014年4月に運用を開始した。プロジェクトの推進に携わってきたアビームのシニアマネージャー 若杉亮太は「打合せの雰囲気も非常に良く、お客様も含めたメンバー全員が前向きにプロジェクトに参画したことが大きかったと思います」と振り返る。タスク着手前の計画段階でアビームメソッドならびにATSをベースとしたプロセスについて、アビーム内あるいはお客様と十分に議論したうえで作業を進めたことが、手戻りを極小化することにつながった。また、プロジェクト進行中にもいくつか新たな課題が生じたが、安易に追加開発で対応することはせず、複数の代替案を揃え、お客様とアビームの双方で最適な対応方法を模索し、合意しながら進めたことも功を奏した。

運用後のシステムの状態について、西谷氏は「確実に従前のシステムよりも安定しています」と話す。新たな入力方法や項目名称の変更等に現場が戸惑うのではと心配する声もあったが、予想以上に混乱はなかった。JR四国 総合企画本部 副長 香川祐二郎氏は「入力の項目数も少ないし、個人的にはむしろSAPのほうが操作は容易だと感じます。周囲からも同様の声をよく耳にします」と語る。

また、国鉄時代からシステムや制度変更が幾度となく繰り返されてきた中、固定資産データの管理手法が複雑になりコードを決定する段階で判断に迷うことも多かったが、今回の導入は一度それに見直しをかける契機にもなった。

さらに、情報システム担当者が早い段階からプロジェクトに参画したことで、業務知識、技術レベルが向上するという、キックオフ前は予期していなかった効果も得られた。様々な課題を解決するべく導入された新システムは、多様な付加価値をもたらしたのである

VOICE (ABeamへの評価)



四国旅客鉄道株式会社
財務部経理課 副長

戸川 健司 氏

「スケジュールをしっかりと管理していただいたので非常に助かりました。おかげで概ね遅れることなくプロジェクトを進められたし、私はテストのほうに専念することができ、エラーの少ないシステムが出来上がったと感じています」



JR四国情報システム
株式会社
情報システム部 課長

西谷 光弘 氏

「スムーズにコミュニケーションできる関係を築けたことが、作業を円滑に行えた一番の要因だと思っています。システムを取り巻く技術的な環境がめまぐるしく変化していく中、変化に立ち遅れることなく、安定した運用ができるように今後もサポートをお願いできたらと思います」



JR四国情報システム
株式会社
情報システム部

石原 裕士 氏

「最初にスケジュールを提示いただいた時点で『こんなドキュメントも出来ます』という話までいただき、その経験値の高さに驚きました。実際に様々な資料が手元に残り、今後も活用していけそうなので非常にありがたく思っています」

安定運用、財務会計の業務効率化から さらに情報の利活用へ

今回のプロジェクト全体を振り返り、末沢氏はこう話す。「アビームによるプロジェクトの進め方や考え方は非常に納得できるものでした。『なぜこのフェーズにこれだけ時間をかけるのか』といった説明がよく理解でき、おかげでスムーズに進行できた感があります」。テストを行う中で遅れが生じた際は、全体に影響がないようにスケジュールを組み替えて次のフェーズへ着実に進めるなどの柔軟な対応についても、JR四国は高く評価する。また、「アビームの各モジュール担当者はシステムの知識はもちろん、鉄道に関する業務知識も豊富で、JR四国ではどうしているかを伝えれば他社事例も交えてわかりやすく対応案を提示してくれました。結果的に独自改修を十分に抑えることが可能なシステムを導入できたと捉えています」と石原氏は語る。

今後の方針について戸川氏は「当面はシステムを安定運用し、財務会計の業務効率化、そして決算を円滑に行うことが目標。まだ先の話ですが、ゆくゆくはシステムに蓄積した情報を分析し経営判断に役立てるという道もあるでしょう」と話す。

プロジェクトの本当の成果は新システムを導入することではなく、それを活用していくことで得られるもの。大量かつ多様なデータを取り込むことで、単純なコスト分析はもちろん現場における生産性の向上ほか、情報をどのように業務や経営に活かしていくかというアイデアも生まれてくることだろう。新たな財務システムという揺るぎない礎が構築された後も、JR四国のさらなる業務効率化、ビジネスの発展に向けてアビームのフォローは続いていく。

ABeamの中心メンバー



社会インフラサービス・
コンシューマービジネス
統括事業部
執行役員 プリンシパル
山田 紀夫



社会インフラサービス・
コンシューマービジネス
統括事業部
シニアマネージャー
若杉 亮太



プロセス&テクノロジー
第2事業部
マネージャー
熊倉 慎介



社会インフラサービス・
コンシューマービジネス
統括事業部
シニアコンサルタント
大出 雄資

クライアント概要

会社名	四国旅客鉄道株式会社
所在地	香川県高松市浜ノ町8-33
設立	1987年4月1日
事業内容	旅客鉄道事業、旅行事業、その他関連事業
資本金	35億円
売上高	279億円(2014年3月期)
従業員数	2,629人(2014年4月現在)

プロジェクト概要

概要	制度改正への的確な対応、よりレベルの高い財務報告への対応、固定資産関係業務の効率化、独自改修の極小化によるシステム維持費用の低減などを目的とした財務システムの導入
ソフトウェア	SAP® ERP (ECC 6.0) ABeam Transportation Solution(ATS)

